

# Distribution of myofibroblasts in stage II and IV pressure ulcers

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kitagawa, Atsuko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/19462">http://hdl.handle.net/2297/19462</a>

# 博士論文審査結果報告書

学位授与番号 医博甲第 1721 号

学籍番号 \_\_\_\_\_

氏 名 北川 敦子

論文審査員

主 査 (職名) 稲垣 美智子 (教授)

副 査 (職名) 坂井 明美 (教授)

副 査 (職名) 真田弘美 (東京大学教授、

金沢大学客員教授)

論文題目 Distribution of myofibroblasts in stage II and IV pressure ulcers

## 論文審査結果

本論文は、褥瘡の深度（特にステージⅡとステージⅣ：ポケットを有するステージ）の違いにおける筋線維芽細胞の分布と創収縮の関係を明らかにする目的とした研究である。

方法は、病理検査および解剖用実習遺体で観察された 8 部位（ステージⅣ5 部位、ステージⅡ3 部位）を組織学的手法により観察した。組織学的方法には、HE 染色、 $\alpha$ -SMA 免疫染色を実施し、光学顕微鏡にて観察した。組織の提供および研究参加については、生前に本人および家族からの同意を得た。

結果、ステージⅡとステージⅣは組織学的な違いがあることが見出された。ステージⅡでは筋線維芽細胞は出現しておらず、このステージの褥瘡は収縮ではなく表皮化で治癒することが示唆された。一方、ステージⅣでは、創口を囲むように筋線維芽細胞が分布し、ポケットの被蓋部から創底にかけ U 字型に分布しており、ステージⅣにおける筋線維芽細胞の関与が明らかとなった。またステージⅣでの筋線維芽細胞の分布は、ポケット移行部ではややまばらに配列し、創底には多数の筋線維芽細胞が帯状に配列していることを見出した。これらのことからポケットを有するステージⅣの褥瘡では、肉芽組織の増殖意外に、筋線維芽細胞が創収縮をさせ褥瘡を閉鎖させるような配置をとり作用していると考察された。

本研究の審査では、褥瘡の深度としてはステージⅠからⅣの 4 段階のうちの 2 つのステージの解明であることの指摘もあった。しかしながら、人の褥瘡を用いた研究としては報告例がないこと、さらにポケットを有する褥瘡における部位別の筋線維芽細胞の配列を詳細に明らかにした報告例はなく、褥瘡治癒促進あるいは難渋していたケア方法の開発に寄与できる基礎研究として評価された。この結果は、褥瘡の病態および治癒機構の解明に貢献できると考えられた。また、本研究の実施にあたっては、生前から研究者が、資料提供者および家族の信頼関係を持っていたから実現したものであり、ケア実践者および研究者としての素質として評価した。そして口頭、公開審査においての質疑において、その内容、態度は的確且つ論理的であった。以上より、本論文が博士（保健学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は保健学における研究を自立して行うことに必要な高度な研究能力を有すると認め、論文審査を合格と判定した。